

建築 学科・専攻

No.	書名	著(編)者名	出版社	ISBN 又は 出版年	推薦者資格・氏名	選書で想定する対象者			推薦理由 (200文字前後を目安)	推薦書に関連する図書の情報(3~5冊程度)				備考	
						学 年	配架(希望)先			書 名	著(編)者名	出版社	ISBN 又は 出版年		
							駿河台 校舎	船橋 校舎							
1	パブリック空間の本—公共性をもった空間の今までとこれから	今村 雅樹 高橋 晶子 小泉 雅生	彰国社	978-4395023110	教授 今村雅樹	1年生			私たちの社会は、国や場所、時代や制度などによって、「公共性のあり方」が違ってきます。この本は、「パブリック性のある建築や都市空間」を考える時に、社会と自分の関係を把握すること、そしてこれからの時代にどのような公共性のある空間が必要なのかを考える手助けとなる本です。過去の公共的空間の成立過程や、設計手法やノーターション、思想的な背景までを解りやすく解説した専門書です。	1	公共性の構造転換	ユルゲン・ハーバーマス	未来社	1994	
						2年生以上				2	地域社会圏主義	山本理顕他	INAX出版	2012	
						全学年	○	○		3	広場の造形	カミロ・ジッテ	鹿島出版会	1983	
										4	パタン・ランゲージ	クリストファー・アレグザンダー	鹿島出版会	1977	
										5	都市と建築のパブリックスベース	ヘルマン・ヘルツベルハー	鹿島出版会	1995	
2	建築から都市を、都市から建築を考える	楨 文彦	岩波書店	978-4000610759	教授 宇於崎勝也 教授 今村雅樹	1年生		世界に誇る日本人建築家の著者は、N.Y.グラウンド・ゼロに建つ(予定の)7棟の高層ビルのうち4WTCの設計者でもある。代表作のひとつ代官山ヒルサイドテラスの見学レポートを書いた学生も多かったろう。本書は、建築家が単に建築物の設計者に留まらないことを松隈洋氏との対談の中で自身の活動を振り返り、「場」をつくることの重要性を説いており、建築家はこうありたいと思わせてくれます。	1	見えがくれする都市 江戸から東京へ(SD選書)	楨 文彦、若月幸敏、大野秀敏、高谷時彦	鹿島出版会	1980		
						2年生以上				2					
						全学年	○		○	3					
										4					
										5					
3	東京都市計画物語	越沢 明	筑摩書房(ちくま学芸文庫)	978-4480086181	教授 宇於崎勝也 教授 今村雅樹	1年生		都市の歴史を膨大な史資料から明らかにするという、著者の方法論は常に揺るがない。本書は東京に視点をあてて関東大震災(1923)以降、先の東京オリンピック(1964)までの都市計画の栄光と挫折を明らかにしている。東京の社会・経済的な発展と都市の変化を合わせて理解するに最適な1冊といえる。索引もしっかりしており、都市計画の事典代わりにも使える。	1	都市をつくった巨匠たち シティプランナーの横顔	新谷 洋二 越沢 明	ぎょうせい	2004		
						2年生以上				2	江戸東京まちづくり物語 生成・変動・歪み・展望	田村 明	時事通信		1992
						全学年	○		○	3					
										4					
										5					
4	街並みの美学	芦原 義信	岩波書店	978-4006000493	助教 古澤 大輔	1年生		本書では、建築物が集まってつくられる街の景観に対して、西欧と日本を比較、考察しながら、評価の指標が提示されている。どのような街並みが良い街並みなのか、という問いに対して自分なりの考えを示したい学生にはお勧めである。また、内部と外部、床と壁、街路の構成など、建築を都市と連続して考えるうえで必要になる具体的なヒントがたくさんある。豊富な事例、図版と分かりやすい文体でかかれた本書は、都市への眼差しをトレーニングする上で、入門書としてふさわしい一冊である。	1						
						2年生以上				2					
						全学年	○		○	3					
										4					
										5					

5	表徴の帝国	ロラン バルト著 宗 左近 訳	筑摩書房	978- 44800830 74	助教 古澤 大輔	1年生			フランスの哲学者、ロラン・バルトの有名な著書である。ジャンルとしては建築の本ではないが、建築の世界ではよく引用されるので、是非一読してほしいと思う。日本の皇居と西欧の広場が持つ意味の考察はあまりにも有名である。西欧文化が意味と記号との間に強い結び付きを求めるのに対して、日本は意味不在の記号によって形づくられる文化だということを、食文化や娯楽文化の考察を通じて明らかにしていく過程は、とてもスリリングで今読み返してみても面白い。	1					
						2年生以上				2					
						全学年	○	○		3					
										4					
										5					
6	ペンローズの量子脳理論— 21世紀を動かす心とコンピュータのサイエンス	ロジャー ペン ローズ	徳間書店	978- 41986070 36	助教 古澤 大輔	1年生			アインシュタインの相対性理論は、すべての物質は相対化された関係にあることを、私たちに突きつけた物理学の決定的な理論であるが、ただ一つの例外、光の存在が絶対的な基準として理論の中心に据えられている。一方、二つの世界が同時に存在し得る重ね合わせの世界、量子力学の世界では、神が作った絶対的な存在である光さえも相対化してしまう。非計算論的に振舞う量子的な状態と、人間の意識という複雑で計算不可能な現象との関係性を、数学的アプローチから検証していくプロセスは、読んでいて興奮を覚えるだろう。	1					
						2年生以上				2					
						全学年	○	○		3					
										4					
										5					
7	地震と建築	大崎 順彦	岩波書店(岩 波新書;黄 版 240).	978- 40042024 00	准教授 田嶋 和樹	1年生			大崎順彦先生によって書かれた地震工学に関する名著であり、建築を学ぶ学生にとつての必読書である。タイトルの通り、最初に地震に関する知識を深めながら、次第に建築との関係性、すなわち地震被害と耐震設計の話につなげる構成が秀逸である。最近、大学における専門教育の導入の難しさを感じているのだが、本書はまさしく地震工学分野の入門書として最適であり、見本である。そして、発刊から30年以上経つ現在においても唯一無二の存在である。	1	新・地震動のスペクトル解析 入門	大崎順彦	鹿島出版 会	1994	
						2年生以上				2	建築振動理論	大崎順彦	彰国社	1996	
						全学年	○	○		3	建築振動学(建築構造講座 第17巻)	田治見 宏	コロナ社	1965	
										4	応答性能に基づく「対震設計」 入門	石丸辰治	彰国社	2004	
										5	エネルギーの釣合に基づく建 築物の耐震設計	秋山宏	技報堂出 版	1999	
8	構造デザインマップ 東京	久保 純子 著 斎藤公男 監修	総合資格	978- 48641712 12	准教授 田嶋 和樹	1年生			建築学科の学生に限らず、建物が好きな人は多いのではないのでしょうか？建物を実際に見に行くことが好きだという人もいるでしょう。では、建物を見る時に、何に魅力を感じますか？美しい姿や心地よい空間に惹かれるという人が多いと思いますが、建物の魅力はそれだけではありません。その姿や空間をこの世界に実現している構造の世界に足を踏み入れてみませんか？本書は建物好きのみならず新たな魅力を教えてくれます。早速、本書を持って街に出てみましょう！	1	新しい建築のみかた	斎藤 公男	エクスマ レッジ	2014	
						2年生以上				2	20世紀を築いた構造家たち	小澤 雄樹	オーム社	2014	
						全学年	○	○		3	構造と感性:構造デザインの 原理と手法	川口 衛	鹿島出版 会	2015	
										4	建築構造のしくみ—力の流れ とかたち	川口 衛, 松谷 宥彦, 川崎 一 雄, 阿部 優	彰国社	2014	
										5	空間・構造・物語—ストラク チュラル・デザインのゆくえ	斎藤 公男	彰国社	2003	

9	構造デザイン講義	内藤 廣	王国社	978-4860730406	准教授 田嶋 和樹	1年生			建築家である内藤氏が東京大学の社会基盤工学科で行った講義の内容をまとめた本である。現代の建築における主要な構造や素材について、その歴史や長所と短所を述べるだけでなく、使用する際の留意点などの地震の考えを様々な建築物や自身の作品を題材として語っている。特筆すべきは、取り上げている題材の多さであり、この一冊を読むだけで、相当数の建築作品に触れることができるだろう。また、本書を通して、内藤氏が語るエンジニアの心構えにも触れて欲しい。	1	環境デザイン講義	内藤 廣	王国社	2011
						2年生以上				2	形態デザイン講義	内藤 廣	王国社	2013
						全学年	○	○		3	建築のちから	内藤 廣	王国社	2009
										4	場のちから	内藤 廣	王国社	2016
										5				
10	基礎教材 建築環境工学	垂水弘夫 監修 鍵直樹・円井基史・小崎美希・富田隆太 著	井上書院	978-4-7530-1762-1	准教授 富田 隆太	1年生			建築物の中で人が快適に過ごすために、建築環境工学は重要な分野であり、近年、注目が高い。本書は、建築環境工学を学ぶための基礎教材であり、将来、建築士の資格取得を目指す初学者を対象に、空気環境、熱環境、光環境、音環境の各分野についてわかりやすく書かれています。特徴としては、建築士試験の出題傾向に沿ってまとめられていることや單元ごとに演習問題が用意されており、学修しやすいテキストになっていると思います。	1	建築環境工学用教材 環境編 第4版	社団法人 日本建築学会	丸善出版	2011
						2年生以上				2	建築環境工学 第3版(初学者の建築講座)	倉淵 隆(著),長澤 泰(監修),安孫子 義彦(専)	市ヶ谷出版社	2016
						全学年	○	○		3	改訂版 初めての建築環境	<建築のテキスト>編集委員会	学芸出版社	2014
										4				
										5				
11	最高の環境建築をつくる方法	山梨 知彦 伊香賀 俊治	エクスナレッジ	978-4767816166	准教授 富田 隆太	1年生			エネルギー問題を中心に、建築環境工学への関心が高まっています。本書は、「環境建築」をテーマにユニークな内容で構成されています。というのも、本書は、2部構成となっており、前からは、「環境から建築を考える」、後からは、「建築から環境を考える」というテーマで2人の著者により執筆されています。建築環境工学の専門家と建築家が、ある意味で反対の方向からアプローチをしている本書を読むことで、環境建築の今後の目指すべき道が見えてくるかもしれません。	1	解決!「環境建築」	日経アーキテクチュア 編	日経BP社	2010
						2年生以上				2	プロとして恥をかかないためのゼロエネルギー住宅のつくり方	西方里見	エクスナレッジ	2013
						全学年	○	○		3	最新版 最高にわかりやすい建築設備	GREEN&BLUE UNIT'S	エクスナレッジ	2014
										4				
										5				
12	音響キーワードブック	日本音響学会 編	コロナ社	978-4-339-00880-7	准教授 富田 隆太	1年生			本書は、音響に関するキーワードの解説集である。どのキーワードも見開き2頁のヴォリュームでまとめられており、豊富な内容をつかみやすいように工夫されています。事典のような使いみちだけではなく、読者の気の向くままに、音の世界の広がりを経験することも本書の特徴の一つです。各キーワードは、200名を超える研究者がそれぞれ執筆されており、非常に魅力のある内容となっていると思います。	1	建築音響と騒音防止計画(第4版)	木村 翔	彰国社	2012
						2年生以上				2	新版 音響用語辞典	日本音響学会編	コロナ社	2003
						全学年	○	○		3	騒音用語事典	日本騒音制御工学会編	技報堂出版	2010
										4				
										5				

13	オリンピック・シティ 東京 1940・1964	片木 篤	河出書房新 社	978- 43096241 29	准教授 富田 隆太	1年生			2020年にオリンピック・パラリンピック競 技大会が東京で開催されます。本書 は、幻に終わった第12回(1940年)、ま た皆さんもご存じの第18回(1964年)の2 つの東京オリンピックについて、都市・ 建築の視点から論じられています。こ の本の一部を紹介すると、「選手村は、 開催国での当時の集合住宅の考え方 を端的に示すもの」とあり、第12回の選 手村のいくつかの案や第18回の代々 木選手村になるまでの経緯や選手村 の概要などが論じられています。	1	幻の東京オリンピック 1940年 大会 招致から返上まで	橋本 一夫	講談社	2014
						2年生以上				2	幻の東京五輪・万博1940	夫馬 信一	原書房	2016
						全学年	○	○		3	地図で読み解く東京五輪	竹内 正浩	ベストセ ラーズ	2014
										4				
										5				
14	雪と建築	日本建築学会 編	技報堂出版 社	978- 47655254 42	教授 中島肇	1年生			雪と建築に関わる諸問題は、雪国に限 られるものではありません。例えば、首 都圏でも高層ビルからの落雪により、 ガラスツブライトや自動車のフロントガ ラスを破損させた事故が発生していま す。このような雪と建築に関わる諸問 題の多くは、建築計画の段階で検討す ることにより回避できます。本書は、建 築計画において考慮すべき課題を整理 し基本的知識をまとめた雪と建築に関 する入門書です。設計者はもちろん工 事管理者など、これらを目指す学生諸 君の必読書です。	1	雪国学	沼野夏生	現代図書	2006
						2年生以上				2	新版 雪氷辞典	日本雪氷学会	古今書院	2014
						全学年	○	○		3	積雪観測ガイドブック	日本雪氷学会	朝倉書院	2010
										4				
										5				
15	建築学用語辞典 第2版	日本建築学会 編	岩波書店	978- 40008009 45	助教 石鍋雄一郎	1年生			その名の通り、建築学に関する専門用 語の辞典です。インターネットであらゆ る言葉の意味が調べられる時代です が、情報の信頼性が疑問な場合もあり ます。専門性の高い言葉であればなお さらです。その点、本書は日本建築学 会による出版物なので信頼性が非常に 高いです。建築の勉強をしていると、本 書が手元にあると非常に助かります。 まずは図書館で手にとって、気に入っ たら購入されることをおすすめします。	1	建築大辞典	彰国社	彰国社	1993
						2年生以上								
						全学年	○	○						
16	サクッと分かる鉄骨造のつく り方	建築知識 編 者	エクスナレッ ジ	978- 47678163 64	助教 石鍋雄一郎	1年生			建築学科3年生の必修科目である「鋼 構造」の授業では、鋼構造(鉄骨造)の 各部の構造設計に関する内容が多く取 り上げられ、製作や施工についてはあ まり話題が及びません。 本書で、鉄骨造のリアルな姿、製作の 実際について知っておくと、授業に対 する興味が高まり、理解もより深まると思 います。	1	世界で一番くわしい鉄骨造	田辺雅弘 中島宏治	エクスナ レッジ	2011
						2年生以上								
						全学年	○	○						

17	日本建築構造基準変遷史	大橋雄二	日本建築センター	978-4889100648	助教 石鍋雄一郎	1年生			我が国の建築構造に関する技術的変遷を、市街地建築物法や建築基準法などの法令に定められた基準の移り変わりを軸に紐解いた本です。建築構造を扱った本ではありませんが、構造以外の分野を志望する学生の皆さんも知ってほしい事柄(人物や歴史的出来事など)が多く登場しますので、ぜひ手にとってみてください。構造系の卒研・院生は、自分の研究が日本の建築構造技術発展の系譜の中でどのような位置にあるのか想像しながら読んでもらおうとおもしろいと思います。	1	規基準の数値は「何でなの」を探る 第1巻	寺本隆幸, 大越俊男, 和田章 監修	建築技術	2015	
						2年生以上				2	規基準の数値は「何でなの」を探る 第2巻	寺本隆幸, 大越俊男, 和田章 監修	建築技術	2015	
						全学年	○	○		3	規基準の数値は「何でなの」を探る 第3巻	寺本隆幸, 大越俊男, 和田章 監修	建築技術	2015	
										4					
										5					
18	くわしすぎる構造力学演習 I・M・Q・N図編	岡田章 宮里直也	彰国社	978-4395320110	教授 宮里直也	1年生			構造力学に苦手意識を持つ人が少なくありません。本書は、構造力学の理論的な解説をできるだけ省略し問題を解くことを通じて、構造力学の楽しさを味わいながら自然と理論が身につくことを目的に作られています。パートIでは、構造力学の基本となる反力から始まり、静定構造の片持梁、単純梁の断面力図を描きます。	1	くわしすぎる構造力学演習II 図解法と変形編	岡田章 宮里直也	彰国社	978-4395320271	「くわしすぎる構造力学演習I」は、一級建築士の構造分野でも必携の基本書である。
						2年生以上				2	くわしすぎる構造力学演習III 不静定構造編	岡田章 宮里直也	彰国社	978-4395320349	
						全学年	○	○		3					
										4					
										5					
19	くわしすぎる構造力学演習 II 図解法と変形編	岡田章 宮里直也	彰国社	978-4395320271	教授 宮里直也	1年生			構造力学に苦手意識を持つ人が少なくありません。本書は、構造力学の理論的な解説をできるだけ省略し問題を解くことを通じて、構造力学の楽しさを味わいながら自然と理論が身につくことを目的に作られています。パートIIでは、静定構造の梁の曲げモーメント図を図解法で描き、トラスの軸力及び変位、梁やラーメンの変形を求める手法を学びます。	1	くわしすぎる構造力学演習I M・Q・N図編	岡田章 宮里直也	彰国社	978-4395320110	「くわしすぎる構造力学演習II」は、一級建築士の構造分野でも必携の基本書である。
						2年生以上				2	くわしすぎる構造力学演習III 不静定構造編	岡田章 宮里直也	彰国社	978-4395320349	
						全学年	○	○		3					
										4					
										5					
20	くわしすぎる構造力学演習 III 不静定構造編	岡田章 宮里直也	彰国社	978-4395320349	教授 宮里直也	1年生			構造力学に苦手意識を持つ人が少なくありません。本書は、構造力学の理論的な解説をできるだけ省略し問題を解くことを通じて、構造力学の楽しさを味わいながら自然と理論が身につくことを目的に作られています。パートIIIでは、不静定構造を解くための4つの手法を問題を解くことによって修得します。一級建築士の試験レベルを軽々と超えるスキルが身につきます。	1	くわしすぎる構造力学演習I M・Q・N図編	岡田章 宮里直也	彰国社	978-4395320110	「くわしすぎる構造力学演習III」は、一級建築士の構造分野でも必携の基本書である。
						2年生以上				2	くわしすぎる構造力学演習II 図解法と変形編	岡田章 宮里直也	彰国社	978-4395320271	
						全学年	○	○		3					
										4					
										5					

21	想像ラジオ	いとうせいこう	河出書房新社	978-4309413457	教授 田所 辰之助	1年生			編集者、小説家、作詞家、音楽家、俳優など幅広く活躍する著者が、3.11をテーマに著した幻想的な小説。津波に流され高い杉の木のおかげで仰向けになって横たわりつづけている男。かれは死者たちに向けラジオ放送をはじめた。かれの言葉は死者たちのあいだに響く間にひろがり、大きな反響を得る。だが、残された生ある者にかれの放送は届かない。想像力をもつ、ごく一部の人たちのをぞいで……。津波に呑み込まれた死者たちの言葉と、反対に想像力を枯渇させていく、残された人たち。3.11後の日本を逆照射していくかのような、はるかなる鎮魂の書。	1 ノーライフキング	いとうせいこう	河出書房新社	2008
						2年生以上				2 震災後文学論—あたらしい日本文学のために	木村朗子	青土社	
						全学年	○	○		3 3.11以後の建築 社会と建築家の新しい関係	五十嵐太郎・山崎亮編著	学芸出版社	2014
										4 3.11大震災 写真に残された記憶と祈り X-KnowledgeHOME 特別編集	在本彌生撮影、吉村靖孝編	エクスマレッジ	2011
										5 あの日からの建築	伊東豊雄	集英社	2012
22	日本美を訪ねる関西4都市の旅	大川 三雄 重枝 豊 田所 辰之助 大山 亜紀子	エクスマレッジ	978-4767817569	教授 田所 辰之助	1年生			奈良・京都・大阪・神戸、関西圏のこの4都市をめぐって、古社寺から近代建築まで代表的な建築の見どころを紹介するガイドブック。建築史の要点を解説しながら、それぞれの建物の鑑賞の仕方をわかりやすく記している。理工学部建築学科では毎年、関西建築研修旅行を実施し、すでに50年を超える歴史をもつ。その成果が本書にまとめられた。奈良・京都の社寺を取り上げた「エリアで巡る」旅、また明治～昭和期の近代建築を中心とした「テーマで巡る」旅、通常のガイドブックでは得られない、建築の一歩踏み込んだ読み解き方を知ることができる。	1 日本の伝統木造建築 その空間と構法	光井渉	市ヶ谷出版社	2016
						2年生以上				2 日本木造遺産 千年の建築を旅する	藤森照信、藤塚光政	世界文化社	2014
						全学年	○	○		3 日本の建築遺産12選 語りなおし日本建築史	磯崎新	新潮社	2011
										4 関西の近代建築—ウオートルスから村野藤吾まで	石田潤一郎	中央公論美術出版	1996
										5 関西のモダニズム建築20選	芦屋市立美術館編、築地仁、鈴木理策写	淡光社	2001
23	建築家・吉田鉄郎の『日本の住宅』	吉田 鉄郎 著 近江 栄 監修 向井 寛、大川 三雄、田所 辰之助 翻訳	鹿島出版会	978-4306052376	教授 田所 辰之助	1年生			著者の建築家・吉田鉄郎は東京中央郵便局(現KITTE)の設計者として知られ、戦後は本学でも教鞭をとった。堪能なドイツ語を活かして、日本の住宅建築についての概説書を著したが、本書はその邦訳版である。ヨーロッパの人たちに向けられた平易な語り口のなかに、伝統的な日本建築の作法とその特質が浮かび上がる。われわれもいま、和風の伝統的建築からは遠く隔てられた生活を送っている。日本の住宅とはいったい何だったのか、あらためて振り返ろうとする際に、その大いなる道しるべとなってくれる書。	1 建築家・吉田鉄郎の『日本の建築』	吉田鉄郎著、葉師寺厚訳、伊藤ていじ註解	鹿島出版会	2003
						2年生以上				2 建築家・吉田鉄郎の『日本の庭園』	吉田鉄郎著、近江榮監修、大川三雄、田所辰之助	鹿島出版会	2005
						全学年	○	○		3 図説 日本住宅史 改訂新版	太田博太郎	彰国社	1971
										4 対訳 日本人のすまい	平井聖吾、桐敷真次郎翻訳監修	市ヶ谷出版社	1998
										5 新版 図説・近代日本住宅史	内田青蔵、大川三雄、藤谷陽悦	鹿島出版会	2008
24	HEAT20設計ガイドブック	HEAT20設計ガイドブック作成WG	建築技術	2015	助教 井口 雅登	1年生			省エネルギーと室内環境性能向上を目指した住まいを普及させるために定められたHEAT20基準の設計ガイドブック。高気密・高断熱化された住宅の温熱環境を理解した上で、住宅計画、開口部、断熱外皮などで留意すべき点を豊富な写真を用いて解説している。見開きで1つのテーマが取り上げられ、分かりやすい実測・計算結果によって詳細な解説がされている。特に、省エネルギーを目指した住宅を設計したい学生には、必読の書と思われる。ぜひお薦めしたい。	1			
						2年生以上				2			
						全学年	○	○		3			
										4			
										5			

25	エコハウスのウン	前真之	日経BP社	2015	助教 井口 雅登	1年生			センセーショナルな見出しであるが、見せかけだけになりがちなエコハウスを対象に、科学的根拠を基に、鋭く重要なポイントを解説している。全体的に説明が平易で理解しやすく、基礎理論から住宅設計時に考慮すべき点まで網羅されていて、入門書としても最適である。近い将来に義務化が予定されている新しい省エネ基準の解説もあり、これから住宅や温熱環境を学ぶ学生には、ぜひ読んでもらいたい1冊である。	1				
						2年生以上				2				
						全学年	○	○		3				
										4				
										5				
26	街並みの美学			2015	助教 古澤 大輔 教授 宇於崎勝也	1年生			本書では、建築物が集まってつくられる街の景観に対して、西欧と日本を比較、考察しながら、評価の指標が提示されている。どのような街並みが良い街並みなのか、という問いに対して自分なりの考えを示したい学生にはお勧めである。また、内部と外部、床と壁、街路の構成など、建築を都市と連続して考えるうえで必要になる具体的なヒントがたくさんある。豊富な事例、図版と分かりやすい文体でかかれた本書は、都市への眼差しをトレーニングする上で、入門書としてふさわしい一冊である。	1	続・街並みの美学	芦原義信	岩波書店	
						2年生以上				2	外部空間の設計	芦原義信	彰国社	
						全学年	○	○		3	隠れた秩序 ー21世紀の都市に向かって	芦原義信	中央公論社	(H29に関連する 図書の追加)
										4	東京の美学 ー混沌と秩序	芦原義信	岩波書店	
										5				
27	都市をたたく	饗庭 伸	花伝社	2015	教授 宇於崎勝也	1年生			最近よく耳にするコンパクトシティ。人口が減少していく日本では、広くまばらに住むよりはコンパクトにまとまって暮らした方が、エネルギーやサービスの面でも有利になる。この思想はわかるけど、本当に人は住む場所を集約することができるのか。筆者は自身の研究や経験をふまえて、「スポンジ」化すると表現している。これからの都市の変化を見通した著作。	1				
						2年生以上	○			2				
						全学年				3				
										4				
										5				
28	14歳からのケンテク学	五十嵐太郎 編・著	彰国社	2015	教授 宇於崎勝也	1年生		○	「建築学」とはどのような学問なのか。建築物を建てて、維持していくための技術を身につけることが基本です。しかし、それは中学や高校で学ぶ科目とは全く違った学修なのでしょうか。本書は中学・高校で学んだことが建築学につながることを紹介し、建築の面白さをわからせてくれます。	1				
						2年生以上				2				
						全学年				3				
										4				
										5				

29	規基準の数値は「何でなの」を探る 第1巻	寺本隆幸・大越俊男・和田章	建築技術	2015	助手 宮田敦典	1年生			卒業研究では、日本建築学会の規基準書や指針などを参照する機会が増えると思います。これらの規基準書や指針などに定められている数値が「どのように決められたのか」を多くの執筆者によってわかりやすく紹介されています。	1	規基準の数値は「何でなの」を探る 第2巻	寺本隆幸・大越俊男・和田章	建築技術	2015
						2年生以上	○	○		2	規基準の数値は「何でなの」を探る 第3巻	寺本隆幸・大越俊男・和田章	建築技術	2015
						全学年				3				
										4				
										5				
30	プロでも意外に知らない<木の知識>	林知行	学芸出版社	2014	助手 宮田敦典	1年生	○	○	木材について次のような話を聞いたことがありますか。 ①木の年輪は南側が大きい ②樹木の枝は南側に多い ③ミキに耳を付けると樹液の流れる音が聞こえる 実は、これらの話はすべて間違いです。木材という建築材料の中でも特に馴染み深い材料について、建築学科の学生としては是非知ってほしい内容が紹介されています。	1				
						2年生以上	○	○		2				
						全学年				3				
										4				
										5				
31	レム・コールハースは何を変えたのか	五十嵐太郎＋南泰裕	鹿島出版会	2014	助教 古澤 大輔	1年生			ル・コルビュジェが20世紀前半の最も重要な建築家のひとりだとしたら、20世紀後半はレム・コールハースが同様の役割を担っていると言っても過言ではない。脚本家を経て建築家に転身した彼は、著書である『錯乱のニューヨーク』以後、自らの理論を拡張させ、メディアを自在に横断しながら数多くの重要なプロジェクトを発表し続けている。本書は、コールハースの革命的な活動の奇跡を、1960年代～80年代に生まれた建築家や研究者たちの論考によってまとめられたものであり、コールハースを理解するうえで是非読んで頂きたい一冊である。	1				
						2年生以上				2				
						全学年	○	○		3				
										4				
										5				
32	わかりやすい静音化技術	一宮 亮一	森北出版	978-4627668317	助手 坂本一生	1年生			生活が豊かになり、騒音源が増える一方で、建物の騒音に対する要求性能はいつそう高くなっています。音は常に私たちの回りで発生していますが、もちろん目には見えず、発生原因も複雑です。本書では音の発生メカニズム、伝搬、減衰といった音の基礎的な性質から、騒音の対策までわかりやすく解説されています。専門的な知識がない方でも気軽に読み進められる内容となっています。	1	建築音響と騒音防止計画(第4版)	木村 翔	彰国社	2012
						2年生以上				2	建築音響工学ハンドブック	日本音響材料協会	技報堂	1963
						全学年	○	○		3				
										4				
										5				

33	建築現場実用語辞典	建築慣用語研究会	井上書院	978-4753000302	助手 坂本一生	1年生			建築に関する専門図書、雑誌、新聞に当たり前に登場する用語、法律、基準をはじめ、建築現場でしか聞かない用語についてもコンパクトにまとめられている。さらにカラー図も多くイメージがしやすい。これから建築を学ぶなかで、分からない用語は本書で調べてみると理解を高められる。「ねこ」、「ユニボ」、「さいころ」、「馬鹿棒」など建築現場では毎日聞く用語の意味を知っていますか？	1					
						2年生以上				2					
						全学年	○	○		3					
										4					
										5					
34	耐震建築の考え方	神田 順	岩波書店	1997	客員教授 神田 順	1年生			建物の耐震安全性をどのように考えるかを、新しい工学的な理論もわかりやすく解説したもの。超高層から免震構造や地震被害などの情報についても、具体的に解説されている。	1	建築構造計画概論	神田順	共立出版	2012	
						2年生以上				2	安全な建物とは何か	神田順	技術評論社	2010	
						全学年	○	○		3	地震リスク評価とリスクコミュニケーション	日本建築学会		2011	
										4					
										5					
35	まちづくり図解	佐藤滋 内田奈芳美 野田明宏 増尾孝祐 編	鹿島出版会	2017	助教 赤澤加奈子	1年生			まちづくりの計画やアイデアを生み出す側がどのような思考プロセスを辿ってアイデアや計画へとたどり着くか、本書は早稲田大学佐藤滋研究室によるまちづくりの実践の中で作成された図版をもとにまちづくりの思考・実践プロセスが図解を通して理解できる。図化することで考え方が整理され、意図が明確になる。認識の共有に欠かせない技術であり、ぜひ本書を参考にして頂きたい。	1					
						2年生以上				2					
						全学年	○	○		3					
										4					
										5					
36	図説 都市空間の構想力	東京大学都市デザイン研究室 編	学芸出版社	2015	助教 赤澤加奈子	1年生			どのような都市景観でもそこにどのように成立するがゆえの背景がある。土地に積み重ねられてきた文脈の上にあるのが、今ある都市景観であり、文脈とは自然条件や社会制度など多様な要素から成り立っている。その文脈を理解するための都市の「見かた」について本書ではさまざまな視点が提示されている。都市景観の理解のために欠かせない知見として、ぜひ参考にして頂きたい。	1					
						2年生以上				2					
						全学年	○	○		3					
										4					
										5					

37	液状化の脅威	濱田 政則	岩波書店	2012	助手 道明裕毅	1年生			東日本大震災において、津波災害・原発事故とともに大きな被害をもたらした「液状化」。その被害は建物傾斜・倒壊だけに留まらず、地中埋設物の浮上やライフラインにも影響を及ぼします。そんな液状化現象について、本書では、メカニズムや被害事例などをわかりやすく解説されています。上部構造だけでなく、基礎構造にも目を向けて、「安全」を考えてみる。そんな第一歩にお勧めの本です。	1				
						2年生以上				2				
						全学年	○	○		3				
										4				
										5				
38	改訂新版 建築を知る はじめての建築学	建築学教育研究会	鹿島出版会	2014	助手 道明裕毅	1年生		○	本書は、はじめて建築を学ぶ人に向けて書かれたものです。「建築学とは何か」から始まり、近代建築、都市計画、建築構造、意匠設計、環境・設備、建築施工など、建築の幅と奥行きを学ぶために、広い分野をわかりやすく解説しています。これから建築を学んでいく1年生には、特におすすめの本書です。これからの学習に向けて、是非手にとって見てください。	1				
						2年生以上				2				
						全学年				3				
										4				
										5				
39	建築の構造設計 そのあるべき姿	日本建築学会	日本建築学会	2010	助手 道明裕毅	1年生			本書は、構造設計や構造設計者のあるべき姿、社会から信頼される道筋を分かりやすく解説しています。構造設計は建築に欠かすことが出来ない一方で、2005年の構造計算書偽装問題(通称、姉齒事件)を経て、構造設計者の社会的責任が益々大きくなっています。学生の皆さんが将来を考えていく上で、構造設計者とはどのようなものが、本書で是非感じてみてください。	1				
						2年生以上				2				
						全学年	○	○		3				
										4				
										5				
40	人類と建築の歴史	藤森照信	筑摩書房	2005	教授 宇於崎 勝也 教授 田所辰之助	1年生			人類が「建築」を生み出したときから、今日の建築にまで変化してきた過程を明らかにする建築史の初歩といえる内容です。(宇於崎先生より) 人類がマンモスを追い駆けていた太古の昔にさかのぼり、建築の「誕生」が語られていきます。著名な歴史家にして建築家でもある藤森照信氏が、現代までにいたる建築の流れを独自の視点で解説した名著。日本における住まいの源流、神の住まいとしての神社建築とその発祥、世界の建築様式の変遷、そして20世紀のモダニズム建築などをめぐって、わかりやすい語り口で、それぞれの特徴が明らかにされていきます。そのダイナミックな歴史観は、現代建築を見慣れたわたしたちの目を揺さぶり、建築の根源の世界へと導いてくれているようです。(田所先生より)	1				
						2年生以上				2				
						全学年	○	○		3				
										4				
										5				

推薦者、推薦理由を追記

41	これから学会発表する若者のために ポスターと口頭のプレゼン 技術	酒井聡樹	共立出版	978-4-320-00579	助教 石鍋雄一郎	1年生		○	大学では、高校までの学びとは異なり、全ての学生が同じことを画一的に学ぶのではなく学生一人ひとりがいろいろなものに興味を抱き、自分なりのアプローチでそれに向き合うこととなります。そのため、自分の学びを他者にプレゼンする場面が必然的に出てきます。高校まではそのような経験少なく、どうしたらうまくプレゼンできるか悩んでいる人も多いと思います。良いプレゼンのためには「型」を身につけることが近道です。本書はその「型」の作り方をわかりやすく解説しています。書名に「学会発表」とありますが、授業内や卒研などでの発表でも使える内容ですのでぜひ手にとってください。	1	これから論文を書く若者のために	酒井聡樹	共立出版	978-4-320-00571
						2年生以上	○			2				
						全学年				3				
										4				
										5				
42	設備設計スタンダード図集	柿沼整三 伊藤教子	オーム社	2017	助教 井口雅登	1年生			姿が表に現れない建築設備は、どのような仕組みなのか、どう建築に納まっているのか、分からないことが多いと思います。本図集では、設備設計事務所が実際に作成した図面を通して、建築設備の仕組みや実務的な配置を学ぶことができます。実社会に出る前に設備図面の読み方を知ることができます。そのためこの図集は、設備系の学生はもちろんのこと、設計・計画系の学生にも建築設備を深く理解する良いきっかけとなるでしょう。	1				
						2年生以上	○			2				
						全学年				3				
										4				
										5				
43	施工がわかるイラスト建築 生産入門	日本建設業連 合会	彰国社	2017	助手 宮田敦典	1年生			建築施工は、教科書をいくら読んでも、人から話を聞いても理解しにくいものです。この本は、建築生産のしくみや着工から施工、維持保全、解体まで、そのすべてがイラストで表現されており、大変わかりやすく楽しく読むことができます。また、イラストは、13年間建設会社に勤務され施工を熟知されているイラストレータの方が描かれていますので、細部まで表現されています。	1				
						2年生以上	○			2				
						全学年				3				
										4				
										5				
44	土地と日本人 対談集 司 馬遼太郎	司馬遼太郎	中央公論社	978-4-12-202712-1	非常勤講師 佐藤晃紀	1年生			戦後の高度経済成長期に生じた土地投機等の問題について、司馬遼太郎と各界著名人が原因の解明と解決方を論じている。特に、徳川封建体制から明治維新以後の近・現代に至る資本主義経済下における日本人の土地に対する意識の変遷から、将来資本主義が深化することを見据えたうえで土地のあり方まで論じている。その後のバブル経済、不良債権処理、デフレ経済等の経過を踏まえると、傾聴に値するものである。	1				
						2年生以上				2				
						全学年	○	○		3				
										4				
										5				

45	不動産の鑑定評価に関する基本的考察	榎田光男	住宅新報社	478-9215539	非常勤講師 佐藤晃紀	1年生			わが国の不動産鑑定評価制度は、昭和30年以降の着しい土地価格の高騰により社会・経済にさまざまな問題を生じたことを踏まえて誕生したが、不動産鑑定評価基準作成の中心的役割を担った榎田光男氏が不動産鑑定評価に関して論考した内容を著したものである。鑑定評価基準は数回にわたり改正されたが、常に理論的支柱として読み込まれてきた不朽の書である。	1							
						2年生以上				2							
						全学年	○	○		3							
										4							
										5							
46	不動産鑑定前史概論	馬場武敏	住宅新報社	478-9216098	非常勤講師 佐藤晃紀	1年生			不動産鑑定評価制度は昭和39年に法制化されたが、既に明治時代には政府の殖産興業政策により発足した日本勧業銀行において鑑定規則等が制定されており、これがわが国における鑑定評価基準の先駆けともいえるものであり、この鑑定規則等の整備・発展に関する歴史的事実を取りまとめたものである。班田収授法等のわが国の土地制度の変遷を踏まえており、類書が見られない希有な書である。	1							
						2年生以上				2							
						全学年	○	○		3							
										4							
										5							
47	劇場の構図	清水裕之	鹿島出版会	978-4306051959	助手	堀切梨奈子	1年生		劇空間は客席のつくりかたから決まっていくと言っても過言ではないのかも知れません。 ブラックボックスで観客が客席に座り、舞台上のきらびやかな世界を眺めるような劇場は、劇空間のバリエーションのひとつでしかないことに気づかされます。 劇空間に用いられる「みる側とみられる側の関係」の歴史の変遷を知ると同時に、劇空間の社会とのつながりについて考えさせられる1冊です。	1	劇場空間への誘い—ドラマチック・シアターの楽しみ	日本建築学会(編集)	鹿島出版会	978-4306045477			
							2年生以上				2	劇場空間の源流	本杉 省三(著)	鹿島出版会	978-4306052659		
							全学年	○		○	3						
											4						
											5						
48	原っぱと遊園地—建築にとってその場の質とは何か	青木 淳	王国社	978-4860730253	助手	堀切梨奈子	1年生		ここでいう「遊園地」は、遊び方がわかる遊具で構成されており、あらかじめそこで行われることがわかっている建築で、「原っぱ」は、そこで行われることで中身がつけられていく建築の比喩です。 建築家・青木淳さんの建築論がまとめられた本。建築論をあまり読み慣れていないひとにも読みやすい1冊だと思います。	1	原っぱと遊園地(2)	青木 淳	王国社	9784860730390			
							2年生以上				2						
							全学年	○		○	3						
											4						
											5						

49	思想地図 vol.3	東 浩紀 (編集), 北田 暁大 (編集)	NHK出版	978-4140093443	助手	堀切梨奈子	1年生			「アーキテクチャ」には、建築、社会設計、そしてコンピュータ・システムの三つの意味がある。(本文より)	1	一般意志2.0	東 浩紀	講談社	978-4062173988	
							2年生以上				「アーキテクチャ」をきっかけに建築の捉え方をひろげていくような1冊です。	2	ゲンロン0	東 浩紀	ゲンロン	9784907188207
							全学年	○	○			3				
												4				
												5				
50	場所の力	ドロレス ハイデン (著)	学芸出版社	978-4761531027	助手	堀切梨奈子	1年生			英語は「The Power of Place」。形態が美しく建築的に価値があるものが、都市にとっても価値があり残すべきものだとしていたアメリカで、著者は、その土地の労働者によってつくられた風景にこそ価値がある、と考え、様々な活動を行ってきました。 それは様々なまちづくり活動が行なわれている現在では当たり前前の視点かもしれないませんが、そうではない時代があったことや、その視点をどのように著者が言語化していったのかを知ることができる1冊です。	1					
							2年生以上				2					
							全学年	○	○		3					
											4					
											5					
51	地域をかえるソフトパワー	藤浩志、AAFネットワーク	青幻舎	978-4861523779	助手	堀切梨奈子	1年生			アートプロジェクトや芸術祭が各地で行われるようになった2000年以後の日本。まちづくりが目的のひとつとなっているものも少なくありません。この本に事例として取り上げられたプロジェクトからだけでも、その多様性が伺えます。 123～138ページの「アートプロジェクトとまちづくりの違い」についての座談会からは、アートプロジェクトとまちづくりの双方を捉え直すことができると思います。	1	アートプロジェクト 芸術と共創する社会	熊倉純子, 菊地拓児他	水曜社	978-4880653334	
							2年生以上				2					
							全学年	○	○		3					
											4					
											5					
52	東京ミキサ計画				助手	堀切梨奈子	1年生			東京オリンピックが開催された1964年頃に、芸術家集団ハイレッド・センターがおこなった「秘密芸術」の記録です。彼らが当時の社会と土地の、何を捉えてどんな活動をおこなったのか。 建築や都市の捉え方に遠くならず近からず、参考になる…かもしれません。	1					
							2年生以上				2					
							全学年	○	○		3					
											4					
											5					

53	文化・建築・環境デザイン	エイモス・ラポポート	彰国社	2008	助教	井本佐保里	1年生			「デザイナーの自己表現」とは異なる、利用者本位のデザインとは何かを追求した名著。地域ごとに異なる多様な文化をどのように理解し、デザインへとつなげていくことができるのか。途上国へのまなざしのあり方を教えてくれると同時に、そもそも建築・環境のデザインとは何なのかを考えさせられる。	1	住まいを読む	鈴木成文	建築資料研究社	1999
							2年生以上	○			2	都市を飼いならす	松田素二	河出書房新社	1996
							全学年				3	アジア・アフリカの都市コミュニティ	城所哲夫ほか	学芸出版社	2015
											4				
											5				
54	シリーズ建築人類学[世界の住まいを読む]①～④	佐藤浩司	学芸出版社	1998-1999	助教	井本佐保里	1年生			「建築人類学」という分野を確立した佐藤浩司氏の編著によるシリーズ。世界各地でのフィールドワークに基づいた、住まわれ方、住宅の構法、形態について、その背後にある文化や社会のあり方とともにいきいきと教えてくれる。建築家、B.ルトフスキーの「建築家なしの建築」、原広司らによる集落研究と併せて読むとより理解が深まる。	1	集落の教え	原広司	彰国社	1998
							2年生以上				2	建築家なしの建築	B.ルトフスキー	鹿島出版社	1984
							全学年	○	○		3	すまい考今学	西山卯三	彰国社	1989
											4	集落探訪	藤井明	建築資料研究社	2000
											5				
55	町を住みこなす-超高齢社会の居場所づくり	大月敏雄	岩波新書	2017	助教	井本佐保里	1年生			「住みこなす」をキーワードに、日本のハウジングの歴史、災害後の仮設住宅の計画、家族のあり方の変化、高齢化など、現在の日本が抱える課題を読み解いていく。	1	復興の防災計画	牧紀男	鹿島出版会	2013
							2年生以上				2	災害の住宅誌-人々の移動とすまい	牧紀男	鹿島出版会	2011
							全学年	○	○		3	復興(災害)-阪神・淡路大震災と東日本大震災	塩崎賢明	岩波新書	2014
											4				
											5				